



勝海舟 生誕200周年記念

# 海舟の足跡

HISTORIC SITES OF KATSU KAISHU IN HONJYO

勝海舟の目線で歩く墨田区史跡マップ～本所篇～



明治時代の亀沢町通り

明治時代の横綱河岸

明治時代の両国百本杭

明治時代の本所南割下水

明治時代の二の橋

明治時代の回向院

明治時代の一の橋

明治初年の両国橋

## コラム・本所と海舟

おいら、勝麟太郎、海舟と言えば分かるかな。ようこそ、本所亀沢町へ。おいらが生まれたのはここ。親父の実家、男谷の家だ。

街は賑やかだった。歌舞伎といえは市川団十郎、浮世絵なら広重、歌麿、北斎、近所の回向院では勸進相撲が行われていたっけ。

おいらが七つの頃だったか、親戚のついで第12代將軍家慶公のお子様、初之丞君の勉強のお相手として大奥へ上がったのサ。親父は「これで息子に出世の機会が訪れた、勝家も浮かばれる」と大層喜んだらしい。さて、大奥のお庭には珍しいものがいっぱい大砲に蟹の足跡みたいなものが書いてあって、まあ海外の文字だな、これがおいらの西洋の始まりだ。九つの頃、家に帰らせて頂いた時、手習の帰り道、犬に急所を噛まれた時はいけなかった。親父が必死の看病をしてくれなかったら、今のおいらはなかったかもしれない。やっとこ回復して大奥に戻ってしばらくして、初之丞君が一橋家の跡取りと正式に決まって皆、喜んだよ。親父も「これで麟太郎も家臣として活躍できる」とこれまた喜んだそうだ。ところが初之丞君が病でお亡くなりになってしまった。おいらがお城から下がった時、親父は「青雲を踏み外した」とひどく嘆いたものだったナ。

おいらは年上の従兄、男谷精一郎の道場で剣術の修行に専念した。幕府の講武所で剣術の頭取を務め、聖剣と言われる腕だ。流派は直心影流。この道場に中津藩から来た島田虎之助という男がいて、一年で免許皆伝、独立して浅草新堀に道場を構えた。おいらはその内弟子になったんだ。昼の稽古が終わると舟で向島に渡り、牛島神社で素振り、隣の弘福寺で禅の修行を積んだものだ。

免許をいただいて島田先生の代わりに大名屋敷で稽古をつけたりするまでになったんだが、先生が熱心に勧めるので、おいらは剣術はひとまずおいて、西洋の学問の修行に打ち込むことになったのサ。

(ライター、勝海舟の玄孫)

高山みな子

海舟の面影を訪ねる時間旅行へ出かけましょう。

江戸の古地図に照らしながら、

海舟に縁ある人々の痕跡も点在しています。

ジョン万次郎が身を寄せた江川太郎左衛門邸があったりと、

また本所には海舟の盟友である山岡鉄舟の生誕地や、

維新後も本所の地に足を運んだ記録があります。

海舟も相撲観戦に出かけたり、料亭に招かれたりと

ところで、本所といえは江戸の頃より「相撲」と「料亭」が有名です。

江戸城は無血開城に。本所の地も戦火を免れました。

その後、維新が成り、海舟と西郷隆盛らの尽力によって

やがて天保十二年(一八四一年)、「天保の改革」における不良旗本の取締により、海舟の父・小吉も虎ノ門(現在の永田町)の保科栄次郎方へ押し込みとなったため、一家は本所の地を離れました。

勝家は、本所の界限を三度にわたって移転し、

やがて天保十二年(一八四一年)、「天保の改革」における

不良旗本の取締により、海舟の父・小吉も虎ノ門(現在の永田町)の

保科栄次郎方へ押し込みとなったため、一家は本所の地を離れました。

勝海舟は文政六年一月三〇日(一八二三年三月十二日)に

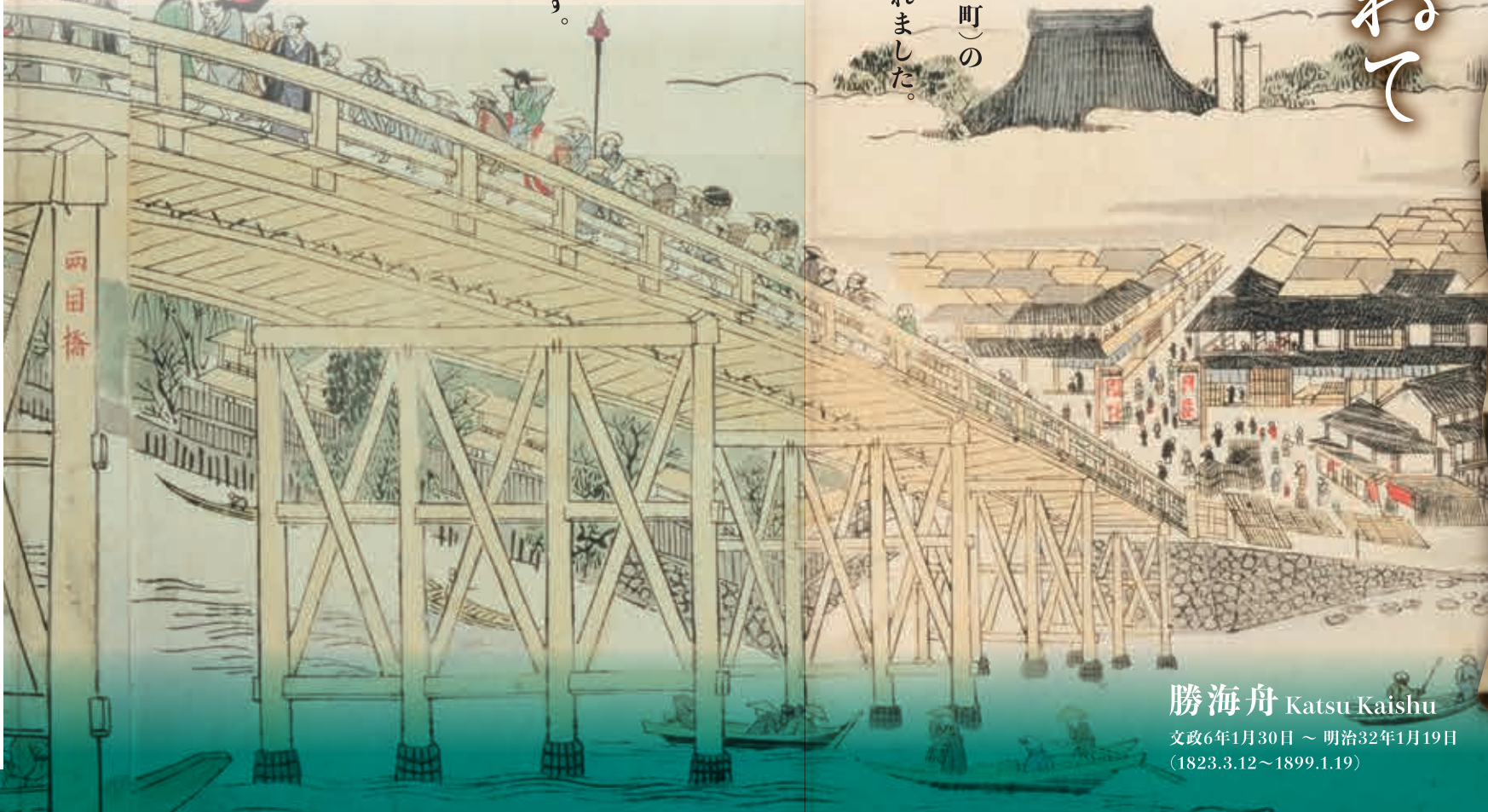
本所亀沢町(現在の両国公園)で生まれました。

# 江戸・東京の下町、 本所に生まれた 勝海舟の足跡を訪ねて



勝海舟 Katsu Kaishu

文政6年1月30日 ~ 明治32年1月19日  
(1823.3.12 ~ 1899.1.19)



两国1-11

両国橋が現在の場所に架け替えられたのは明治三十七年のこと。かつては現在より下流約五十メートルの辺りにあり、当地には説明板が建てられています。この旧両国橋には、箕しと海舟の海舟の思ひ出話があります。ある年のこと、箕しかつた勝家では正月の餅も買えず、親戚宅までもりに出かけたのですがその帰り道、両国橋の上で餅を落としてしまいました。拾いあげても、あまりに惨めで、すべて橋から投げ捨てたと晩年、自身で語っています。



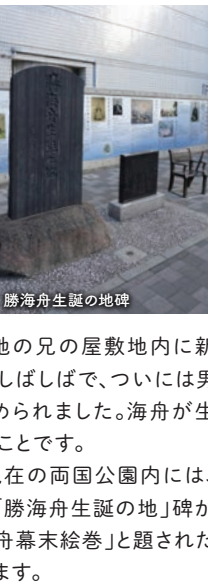
两国2-8-10

兩國の回向院といえは、大相撲と縁が  
 深いことでも有名です。現在、境内は  
 歴代相撲年寄を慰霊した「境内」が建  
 立されています。碑の揮毫は維新後の  
 徳川宗家を継いだ徳川家達の家による  
 ものです。家達は、大相撲好きであ  
 りました。明治時代に向向院へ相撲観戦  
 に行つた記録があります。明治十四年  
 一月十七日に旧薩摩藩主・海江田信義  
 と観戦したようで、身の手記に「海江  
 田信義、相撲行く。競馬、手柄山、高千  
 峰へ酒を運む」とあります。  
 競馬とは、この日引越した境川浪右衛  
 門だと思われまふ。闘勝の手柄山は八  
 勝三敗二分、高千峰は前頭で五勝三  
 敗でした。海舟が酒を運来した手柄山  
 の名前、海舟の日記に  
 幾度か登場しています。晶  
 風の力士だったのかもし  
 れません。



图 4-25

海舟の父・小吉は豊後平蔵の三男として生まれました。やがて七歳の頃、旗本・勝家の養子に育てられますが、生活は深川の男谷の屋敷で続けていました。小吉が九歳の時、男谷家は本所亀沢町へ移り、小吉も同敷地内に設けられた屋敷で暮らすことになりました。現在の兩國公園がその跡地です。その後、十八歳になった小吉は、勝家の娘・信と結婚し、勝家の当主として同地屋敷を構えました。ところが出生することゝ男谷の本家より、三量の歳数年に関じ込められたのは、ちょうどこの頃、文政六年の男谷家の屋敷跡にあたる現海舟が生まれたことを示す「勝家屋敷」建立されているほか、「勝海舟の幼少時代」解説板などが設置されています。



明治十三年三月、海舟は安田財閥の安田善次郎に招かれ、その屋敷を訪ねています。安田邸は日本橋小網町にある名士が、明治十二年十二月に本所横綱の田安家屋敷を購入し、各界の名士をここに招いたといえます。海舟が招かれたのも、この別邸だった可能性があります。

ちょうどこの頃、海舟は日光の牛舎の保護を目的に、旧幕臣や地元有志らが組織した団体「保泉会」への寄付について、安田と相談していました。

「保泉会」の発起人の一人に、安田の協力によって第四国立銀行を開設した鈴木要三がいます。そんな関係から海舟が招かれたのではないでしょうか。その後、安田は本邸を当地に移しました。屋敷地一帯は安田の没後、東京市に寄贈され、その庭園が旧安田庭園として公開されています。



本所4-6-1。

妙見山別院にはフロックコート姿の晩年の海舟像が建立されています。これには昭和四十九年、妙見山開創二百年の際、有志によって建立されたものです。海舟の父・小吉は貧乏を脱するため、妙見山別院で百日の水垢離を決行するなど、熱心に当寺を信じていました。



錦糸  
中学校

海舟が生まれた時、数座年にあった父・小吉も、やがて海舟三郎の頃に牢を出て、就職活動に動き出した。ただし、これはなかなか上手くはいかなかったようです。

この頃、小吉一家は男谷の屋敷地から本所南側下水の旗本・天保上京の地所に移りました。現在の亀沢一丁目十七番地付近がその跡地にあたります。



天野の地所に移った三年後、一家は同じく南割下水の旗本・山口鉄五郎の地所に転居しました。現在の緑三丁目二十二番地、総武線の高架下南側付近がその跡地です。



天保元年〜二年頃、一家は本所入江町の旗本・岡野孫一郎の地所へ移りました。

一方、海舟は七歳の頃より將軍家慶の五男・初之丞の学友としてお城に召されていました。そして九歳の年、天保二年に江戸城からこの屋敷に戻りました。現在、当地には海舟が住んだことを示す説明板が設けられています。

やがて天保十一年、「天保の改革」により、不良旗本の取り締まりが厳しくなると、父・小吉も警居・謹慎となり、虎の門の保科栄次郎方へ同居押し込めとなりました。かくして一家は、本所の地を後にしたのです。



海舟が住んでいたことを示す説明板



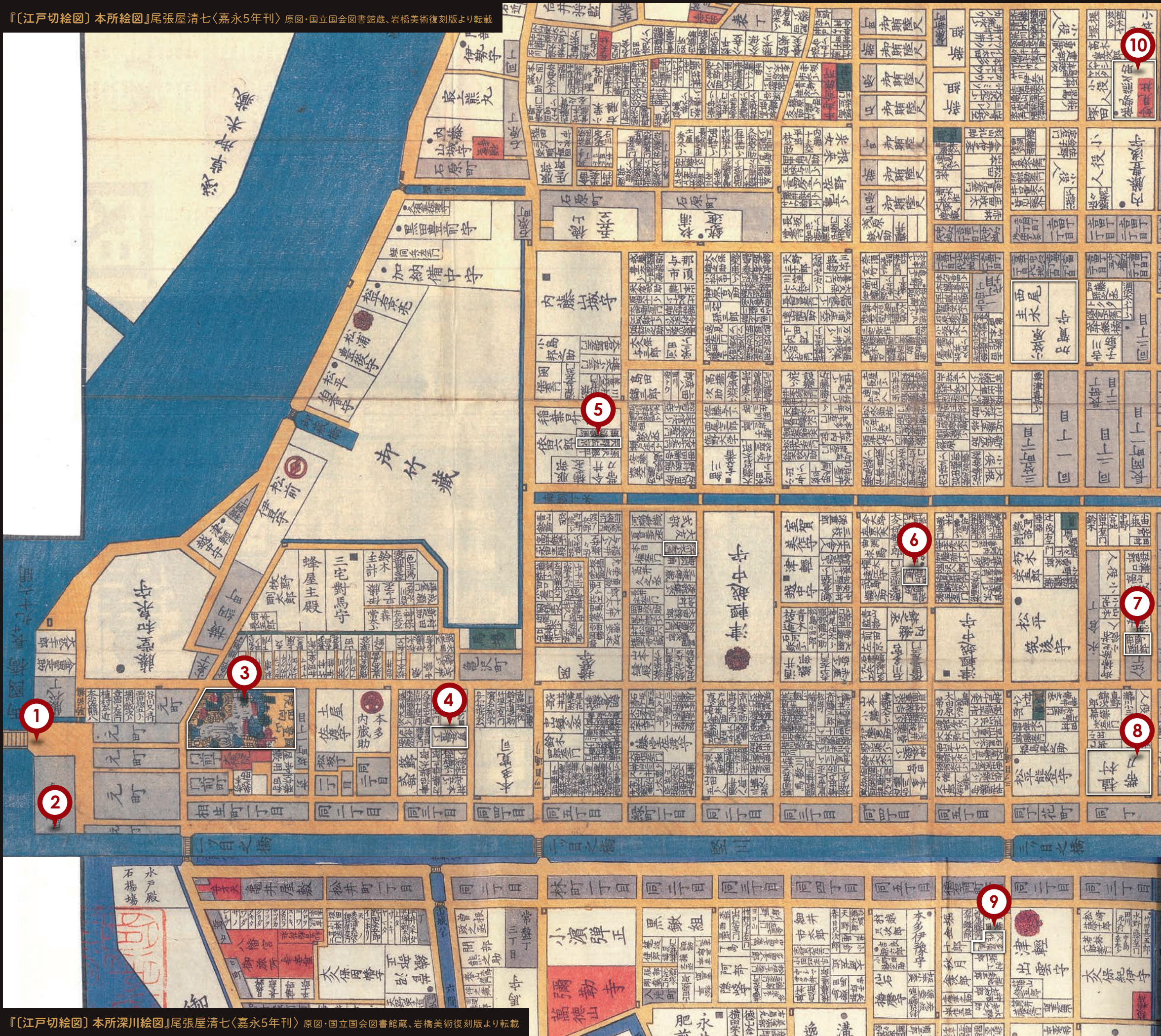
五柱稲荷神社は植村土佐守正頼の屋敷内に祀られたのがはじまりと伝わります。現在、境内には幼少期の海舟が昇降で過ごしたことを示す「勝海舟揺籃の地」の木碑が建立されています。



**病犬に襲われ、溺死となった海舟。**

勝家が岡野孫一郎の地所に移った頃、江戸城から下がっていた海舟は、多羅尾七郎三郎の屋敷へ本の稽古に通っていました。多羅尾の屋敷は現在の立川三丁目九番地付近にあたります。

そんなある日のこと、多羅尾の屋敷へ向かっていた海舟は、道で病犬に幸丸を噛まれ、溺死した状態に陥りました。小吉は必死に看病し、金毘羅に祈願の裸参を行いました。その甲斐あって、海舟も七十日目に床を離れることができました。



## 勝海舟顕彰会

<https://katsu-kaisyu.net/>

会 長 廣田 健史

実行委員長 長谷川 由美

副実行委員長 久力 一雅

役 員 長岡 靖浩 片山 真一

平野 善彦 松田 丈史

佐伯 彰一 猪越 太一

渡邊 秀行 杉山 正純

山口 千鶴子 後原 健

大谷 浩一郎 大塚 武敏

下村 みどり

顧 問 高山 みな子

相談役 板橋 秀幸 中川 圭造

## 東京向島ロータリークラブ

<https://tokyomukoujima-rc.org>

2022-2023年度 会 長 小松崎 慎一

2023-2024年度 会 長 杉本 浩志

## (公社)東京青年会議所墨田区委員会

<https://tokyo-jc.or.jp/sumida/>

## 本所防犯協会

<http://honjyo-bouhankyokai.jp>

## 日本大学校友会東京都第六支部

## 日本大学校友会墨田桜門会

## 向島消防少年団

<https://www.tfd.metro.tokyo.lg.jp/hp-mukoujima/bfc/index.html>

## (株)環境整備

<https://www.kankyoseibi.com>

## 墨田区観光協会

<https://visit-sumida.jp>

古地図 図版提供 岩橋美術 <http://www.iwabi.jp>



web site!



# 海舟の足跡

katsukaishu.site



同時配布中!

# 海舟の足跡 隅田川篇

勝海舟の目線で歩く墨田区史跡マップ



写真出典 【表紙】勝海舟肖像写真(名古屋市博物館蔵) 【折込頁】ロッキングチェアに座った勝海舟肖像写真(横浜開港資料館蔵)／『東都隅田川兩岸一覽 東・部分』天明元年・宇鶴岡蘆水(国会図書館蔵)／明治時代の両国橋(『珍しい写真』永見徳太郎編集・昭和7年)／明治時代の回向院(『東京市史蹟名勝天然紀念物写真帖 第(1)輯』東京市公園課・大正11年)／明治時代の一の橋・明治時代の二の橋・明治時代の本所南割下水・明治時代の両国百本杭・明治時代の横綱河岸・明治時代の亀沢町通り(『東京名所圖會』明治41年・東陽堂)【中面】『両国橋秋月(東都名所八景)』芳虎・安政元年(国会図書館蔵)／『大相撲引分之図』蜂須賀国明・明治9年(国会図書館蔵)／『大相撲引分之図』蜂須賀国明・明治9年(国会図書館蔵)／安田善次郎肖像(国会図書館蔵)／山岡鉄舟肖像(国会図書館蔵)／江川太郎左衛門肖像(国会図書館蔵)／勝海舟浮世絵『二勇之義説』松月保誠著画(三澤敏博蔵)

監修・テキスト:三澤敏博(『江戸東京に遺る勝海舟の足跡』、『勝海舟関係写真集』) コラム:高山みな子(『勝海舟関係写真集』)

企画・制作・デザイン サンピースグラフィックス

東京都墨田区錦糸2-8-11 トウダアレイビル2F TEL▷03-5608-1971 FAX▷03-5608-1972

<https://sun-piece.com>

